

固体地球科学の現状と将来

Advance in Solid Earth Science: Present and Future

大谷 栄治 [1]

Eiji Ohtani[1]

[1] 東北大・理・地球物質科学

[1] Depart. Earth and Planetary Materials Science, Tohoku Univ

本講演では、固体地球物理学（地震現象、火山現象、地殻変動・海底変動、地磁気、重力、観測手法、テクトニクス、内部構造、内部変動・物性、地震災害・予測）、地質学（地層、地殻、テクトニクス、地質時代）、岩石・鉱物・鉱床学（地球惑星物質、地球進化、地殻・マントル・核、マグマ、元素分別濃集過程）、地球化学（元素分布、同位体、物質循環、地殻・マントル化学）などの分野をカバーする固体地球科学の研究の現状を概観する。そして、特に最近10年に特に目覚ましい発展を遂げた分野を紹介し、そのような研究の発展の現状に対して、我が国がどのような貢献をしているかについて評価する。そして、今後特に発展が期待される分野を分析し、この分野において我が国の果たす役割、そして、我が国がその分野で世界を先導するために必要な対応、また重点的に課題を推進するにあたって、このコミュニティーがなすべきこと、その際の問題点とその解決のための提案について議論する予定である。

なお、この提言は、日本学術会議の地球惑星圏分科会において検討されているものである。固体地球科学の検討委員は、長谷川昭（東北大）、木村学（東大）、大谷栄治（東北大）、高橋栄一（東工大）、および富樫茂子（産総研）である。本講演では、この委員会での検討結果について紹介する予定である。